

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第2回）

2 開催した日時

平成28年7月21日（木）15:15～17:25

3 開催場所

岩手県立大学アイーナキャンパス 7階 学習室1

4 出席委員

委員5名中5名、アドバイザー1名中0名

5 研究会協議事項等

(1) 協議事項等

ア 「岩手の幸福に関する指標」と政策評価

○政策推進室から、資料1「岩手の幸福に関する指標」と政策評価を説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(質疑)

次期総合計画との関係では、政策体系の検討のために、幸福に関する指標を固めていくという理解でよいか。

(回答)

ご指摘のとおり。幸福は、次期総合計画の検討に当たり、重要なキーワードの一つであると考えている。

イ 主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について

○政策推進室から、資料2 主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果についてを説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(質疑)

生活満足度と主観的幸福度の差が思ったより大きく、その差に着目していくことにより、何かわかるのではないか。例えば、領域別幸福度と生活満足度の相関を調べ、主観的幸福度との相関と違いがあるのか調べてみてはどうか。

(回答)

整理して次回お示しする。

ウ 検討項目 幸福の概念

○政策推進室から、資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料のうち 幸福の概念 を説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(意見)

政策立案に反映させるのであれば、県民がどこに幸福を感じているのかを基本とすることが重要であり、県民意識調査を基本とすることが適当ではないか。

(意見)

政策評価という観点から、幸福感を測定し、県民が何に幸福感を感じているかを調べ、どこを改善すればよいのか考えるために活用するのであれば、この考え方でよいのではないか。

エ 検討項目 幸福に関する領域

○政策推進室から、資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料のうち 幸福に関する領域 を説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(質疑)

幸福感、幸福度、主観的幸福度と、複数の用語が使用されているが、各用語の使い方を整理されたい。

(回答)

意見を踏まえて整理したい。

(意見)

「仕事」、「家族」等の領域について、主観的幸福度だけでなく、生活満足度との相関を調べ、それぞれの差を見ると何かヒントがあるのではないか。

(意見)

「教育」が子どもの教育か自身の教育水準のどちらを意味するかなど、領域を一語で表現してしまうとその意味に幅が出てしまうので、注意が必要ではないか。

(意見)

「子育て」は育てる側の視点だが、育てられる子どもの側に目を向けてもいいのではないか。

(意見)

次の県民意識調査でどのような質問項目にするかも考える必要があるのではないかと。

オ 検討項目 指標の表現方法

○政策推進室から、資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料のうち 指標の表現方法 を説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(質疑)

政策評価への活用には、個別指標の集まりである「ダッシュボード方式」の方がよい。一方、県民運動として（ワークショップ等で活用するに）は、複数の指標を1つの数値に統合する「統合方式」の方が、わかりやすいのではないかと。

(回答)

意見を踏まえて検討する。

カ 検討項目 I 主観的指標と客観的指標

○政策推進室から、資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料のうち I 主観的指標と客観的指標 を説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(意見)

政策に活用することを考えるのであれば、県の政策で上げることができる客観的指標も設定した方がよい。それにより、主観的には気づいていないよさなども補足できる。

(意見)

主観的幸福度については、10年スパンの長期的な指標として、維持する、もしくは少し上げるということを目指した方がいいのではないかと。(年度ごとの指標管理にはなじみにくいのではないかと。)

キ 検討項目 II 指標設定の考慮事項

○政策推進室から、資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料のうち II 指標設定の考慮事項 を説明。

■委員からの主な質疑等は次のとおり

(意見)

世代差を考慮することについては、どの世代で重視される指標を整理するのはよいが、基本的には全世代に対応した指標とした方がいいのではないかと。子育てのしやすさ等についても、若い世代にも将来を見据えて聞いてもよいのではないかと。

(意見)

日本人的な幸福は、安定的な暮らしや日常があることにより感じる部分もあり、アメリカなどの獲得することにより得られる幸福とは異なる面もあるのではないかと。

(意見)

人や地域などの「つながり」に着目した集合的幸福は、数値化が難しい面もあるが、岩手には合う考え方ではないかと。

(意見)

体系イメージは、主観的指標が「幸福感」に該当し、主観的指標と客観的指標を合わせたものが「幸福度」に該当するのではないかと。

ク その他

○特になし。

(2) 会議資料

- 資料1 「岩手の幸福に関する指標」と政策評価
- 資料2 主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について
- 資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料

※会議資料及び会議録については、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 2名
報道 4社

7 問い合わせ先

盛岡市内丸10番1号
岩手県政策地域部政策推進室評価担当 TEL019-629-5181 FAX019-629-5254

8 ホームページアドレス

<http://www.pref.iwate.jp/seisaku/hyouka/44982/048043.html>

9 その他

本研究会について御意見がありましたら、上記問い合わせ先までFAX等でお寄せください。今後の研究会での審議の参考とさせていただきます。